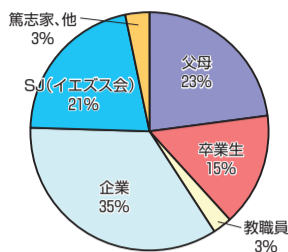


寄付者区分別寄付状況 (単位：円)  
2014年9月30日現在

区分	金額
父母	34,096,923
卒業生	22,843,156
教職員	3,862,460
企業	51,552,324
SJ (イエズス会)	31,637,800
篤志家、他	4,866,760
計	148,859,423



使途別寄付状況

使途区分	使途名称	累計金額
I	グリーンケア養成講座	19,500,000
I	研究助成	18,321,475
II	イオン・スカラシップ	10,857,000
I	課外活動支援 ※	9,211,000
II	被災学生支援	6,505,193
I	アンコールワット遺跡保存活動(西参道修復工事)	5,103,559
I	寄付講座	3,000,000
II	ザビエル高校留学生奨学金	1,213,000
II	タイ日本語スピーチコンテスト奨学金	1,000,000
II	短大修学支援奨学金	900,000
II	理工学部同窓会奨学金	600,000
I	被災地学生ボランティア	500,000
II	経緯会研究奨励金	500,000
I	比較文化研究所リサーチ・ユニットネットワーク研究グループが開催するシンポジウムのため	300,000
II	ジェラルド・バリー賞	200,000
II	神学部奨学金	180,000
II	被災学生支援(短期大学部)	120,000
I	短期大学部SL活動(スペイン語母語継承語)	100,000
II	国文研究奨励金	100,000
I	図書館充実のため	100,000
II	松本あす加・ドイツ語学科奨学金	85,584
II	学生寮基金	58,700
II	ソフィアAWファンド(法学部・奨学金)	52,880
I	ハッカソン開催に伴う賞金	50,000
II	金沢燦爛会奨学奨励金	12,000
II	哈爾濱学院顕彰奨学金	10,000
I	ソフィアAWファンド(法学部・教育研究サポート)	10,000

I=教育研究支援、II=奨学金  
=卒業生主体の奨学金

※課外活動支援の内訳は下表の通り

課外活動支援	8,000,000
課外活動支援(ラグビー部)	400,000
ソフィア祭支援	400,000
課外活動支援(男子バスケットボール部)	200,000
課外活動支援(硬式野球部)	100,000
課外活動支援(体育会本部)	50,000
課外活動支援(水泳部)	36,000
課外活動支援(サッカー部)	25,000

=SOPHIA未来募金の概要=

- 募金の名称  
SOPHIA未来募金
- 募金の目的
  - (1)教育研究支援
    - ・教育研究活動の充実(アンコールワット西参道修復工事支援、グリーンケア研究所等・研究室・研究者等への支援)
    - ・グローバル・リーダー養成(関連するカリキュラム・研究所等の運営支援)
    - ・キャリア形成支援(関連するカリキュラム・講演等の運営支援)
    - ・課外活動・ボランティア活動支援
  - (2)奨学金の新設と拡充
    - ・経済的に修学困難な学生(被災学生等)、海外留学を希望する学生・優秀な外国人学生への奨学支援
    - ・学部学科研究科等独自の奨学支援
    - ・グローバルチャレンジ支援(海外留学・語学研修等の奨励)
  - (3)教育研究環境整備支援
    - ・新棟建築、四谷はじめ各キャンパスの整備・再構築
- 募金目標額  
2億円(毎年度)
- 募集期間  
4月1日～3月31日 毎年度募集いたします。
- 募金方法  
従来の方でお受けいたします。  
詳細は趣意書およびホームページ(http://sophia100.jp/)でお確かめください。

ハッカソンイベントでのチームごとの発表風景



上智学院は、未来の社会をリードする存在として、在校生のご父母や教職員、篤志家や地域、企業の皆様との「連携」を大切に、今後も魅力ある姿を積極的に発信していくこと、そして「ソフィア・ファミリー」としての絆を強く持ち、「上智学院のために」との思いをその胸に抱いていたことが重要と考えています。

また、上智学院では、ソフィア会と連携し「学部・学科同窓会」の設立と運営を支援してまいりましたが、引き続き「創立百周年記念事業募金」で得た最も大きな成果とも言える「絆」と「連携」を同窓会という形でより強く固めることで、上智学院の更なる発展への大きな起爆剤になると期待が寄せられています。

## ソフィア・ファミリーの絆をより強く

### SOPHIA未来募金へご支援を

二〇一四年四月にスタートした「SOPHIA未来募金」そこには、「創立百周年記念事業募金」の流れを継ぎ、「世界に並び立つ大学」として次の百年の発展を見据えた新たな取り組みに果敢に挑戦していきたいという強い意気込みが込められ

「募金の目的」として大きく掲げている三本柱(「SOPHIA未来募金の概要」参照)を基盤とし、更なる教育研究の向上を実現するために最

「絆」により、教育研究の基盤の充実を目に見える

も重視したいもの、それは「連携」です。これまでも、企業名を冠した寄付講座の開設や「総合グローバル学部」の新設など、皆様からのご芳志と長年に渡り共に築き上げて参りました

「SOPHIA SUMMER HACKATHON 2014」未来の街をハックせよ!」(学生プログラマーによるアプリケーション作成の技術)

上智学院は、未来の社会をリードする存在として、在校生のご父母や教職員、篤志家や地域、企業の皆様との「連携」を大切に、今後も魅力ある姿を積極的に発信していくこと、そして「ソフィア・ファミリー」としての絆を強く持ち、「上智学院のために」との思いをその胸に抱いていたことが重要と考えています。

卒業生とのつながり

さらに、上智学院が強化を図らなければならないのが「卒業生との連携」です。「創立百周年記念事業募金」では、皆様からの多大なるご協力のもと数多くの奨学金制度が整備されました。その中には、卒業生主体の奨学金も多数拡充され、在校生に学びの機会を提供する重要な財政基盤となっています(左表)。

また、上智学院では、ソフィア会と連携し「学部・学科同窓会」の設立と運営を支援してまいりましたが、引き続き「創立百周年記念事業募金」で得た最も大きな成果とも言える「絆」と「連携」を同窓会という形でより強く固めることで、上智学院の更なる発展への大きな起爆剤になると期待が寄せられています。

学食メニューを期間限定で安価に提供

在校生父母の団体である提案が発端となったもので、上智大学後援会(※)からの寄付により、学生食堂で提供されるメニューの一部を通常より安価な価格で提供する新たな取り組みが、期間限定で開始されます。

これは、後援会がその価格を一部負担することにより実現する学生生活支援の新しい試みで、ひとり暮らしで下宿している学生をはじめ、多くの学生にしっかりと食事をとってほしいというご父母の思いが込められています。

※上智大学後援会とは在校生のご父母により一

## カンボジアのソフィア・アジアミッションを訪ねる旅

参加費の一部を西参道修復工事のために



今夏に実施された「上智大学建学の精神を学ぶ旅」カンボジアのソフィア・アジアミッションを「アンコール・ワット」西参道修復工事支援として上智学院へご寄付いただくことになりました。十月二十三日、高祖敏理事長、石澤良昭アジア人材養成研究センター長(前列席)のもと、贈呈式が行われました(写真)。

好評につき昨年に引き続き「Men and Women for Others, with Others」を肌で感じることで、このツアー。石澤センター長も同行し、上智大学が一九九一年より現地での人材養成・調査研究活動を行っている「バンダイ・クディ」にて発掘実習体験を行ったほか、「アンコール・ワット」においては西参道の修復工事現場を実際に訪問し、現地の研究員の説明を受けながら回廊を巡るの皆様からのご理解とご協力を賜りたく、よろしくご協力をお願いします。



上智大学後援会の補助による学生食堂メニュー内容

実施期間：12月1日(月)～22日(月)の平日

●2号館5階学生食堂

提供メニュー	通常価格	提供価格	1日あたりの提供食数
1週ごとに対象メニュー変更			
【12月1日(月)～5日(金)】			
ポリウムランチ(日替わりランチ)	450円	200円	2品合わせて400食まで
カレーライス	300円	50円	
【12月8日(月)～12日(金)】			
ポリウムランチ(日替わりランチ)	450円	200円	
アラカルト(日替わり丼)	400円	150円	
【12月15日(月)～19日(金)、22日(月)】			
アラカルト(日替わり丼)	400円	150円	
中華麺	300円	50円	

●11号館地下1階ラウンジ

提供メニュー	通常価格	提供価格	1日あたりの提供食数
全期間【12/18除く】			
メインAセット	460円	210円	160食
ソフィアプレート	410円	160円	160食
日替わり麺	390円	140円	80食
【12月18日限定】			
ソフィアプレート	410円	160円	160食
大勝軒つけ麺	500円	250円	240食

# 上智大学創立百周年記念事業募金

## 最後となる第九回寄付者銘板が追加



二号館入口で存在感を放つ銘板

十月三十一日、二号館の寄付者銘板において、一階入口に設置されている上智大学創立百周年記念事業募金として、九回寄付者銘板が追加されました。

最後の第九回(集計期間二〇一三年七月一日～二〇一四年三月三十一日)は、個人四百七十五人(匿名含む)、団体九十八人、法人三十七人のご芳名が刻銘されました。

累計で個人又は団体で十万元以上、法人で五十万元以上のご寄付を賜った方のご芳名を寄付者銘板に刻銘し、末永く顕彰し、上智大学創立百周年記念事業募金として、九回寄付者銘板が追加されました。

念事業募金としての銘板掲載は、この第九回をもちまして「終」となります。二〇〇四年からの累計は四千二百三十二人ののり、各方面の皆様からの多大なるご支援にあためて御礼申し上げます。

なお、四月より名称あらたにスタートしております「SOPHIA未来募金」につきましても、同様に寄付を頂戴した皆様のご芳名を末永く顕彰させていただきます。方法を現在検討中です。引き続き皆様からのご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

### 受給報告レポート 上智大学篤志家奨学金 (愛和会緩和ケア看護) 大木悦子

総合人間科学研究科  
看護学専攻1年

このたび、「上智大学愛和会緩和ケア看護奨学金」(※)より初の受給者が決定しました。ここに奨学金の概要と受給者からのメッセージをご紹介します。

このたび愛和会緩和ケア奨学金をいただくことになり、喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。



ご家族の協力も後押し

入学前、私は病院で看護士として勤務していましたが、子育ての時期が重なり、毎日が慌ただしく過ぎていく中で、私のしていたことは、単調なルーチンワークと患者さんのおしゃべりだけ。本当の看護とは何かを考えたいという思いがどんどん膨らんでいきました。

そして、子どもが小学校に入学するのを待ち、大学院で看護を学ぶことを決めました。家族も応援してくれ、勤務先より入学してからの毎日はとても刺激的です。キリスト教や看護理論といった新しい知見が私の根底をゆすぶります。ひとりの静かな図書館で過ごす時間は至福の時です。

専攻はがん緩和ケアです。病院では生物医療的なケアが中心になりがちですが、高齢がん患者さんにとって特に必要な看護は、心のケアです。つまり、おしゃべりこそが私にとっての看護だったのかも知れません。

そこで私は、通学の傍ら、自ら訪問看護ステーションを体験し、がん患者さんの集まるサロンでボランティアも始めました。病院の外で見るがん

患者さんは地域で生き生きと生活しています。医療現場では気が付かなかったことです。今後、高齢がん患者さんを全人的に捉えた看護をテーマに研究を予定しています。奨学金を頂くということは、これらの知見を自らに留めず、社会に還元して頂くことです。ママさん院生、がんばります。

※上智大学愛和会緩和ケア看護奨学金

医療法人愛和会からの寄付を基金として二〇一二年に創設され、上智大学総合人間科学研究科看護学専攻が「緩和ケア看護学領域」の学生のうち、学業成績が優秀と認められる新入生に対し二年間給付される。